



名古屋市

CITY OF NAGOYA

## 概要

名古屋のまちの礎が築かれたのは、慶長 15(1610)年の名古屋城築城開始に始まります。以来、名古屋は、モノづくり文化が花開き、商業、工業が栄えるとともに、近世武家文化の香りも色濃く残る、産業と文化が調和した都市として発展・成長を掲げてきました。現在では、市民 220 万人、市域 326km<sup>2</sup>、日本でも有数の都市となっています。

平成 22(2010)年は、名古屋のまちづくりがはじまって 400 年にあたるとともに、生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)が開会されます。

## 戦略

市民・事業者・行政の協働により、平成 11(1990)年の「ごみ非常事態宣言」以降、循環型社会をめざした施策を積極的に推進してきました。その結果、平成 19(2007)年度には平成 10(1998)年度に比べ、ごみ処理量は約 7 割にまで減少し、資源回収率はおよそ 2.8 倍となっています。

この協働の成果を、地球温暖化対策や生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)の開催など地球環境保全への取り組みに発展させ、「環境首都なごや」をめざしています。

名古屋市では、CO<sub>2</sub> 排出量と温室効果ガス排出量を 2010 年までに 1990 年比 10%削減するという目標を立てています。この目標に向け、家庭生活では、各家庭の CO<sub>2</sub> 排出量が簡単に算出でき、さらに市の標準家庭の CO<sub>2</sub> 排出量と比較が可能な「なごやエコライフものさし」を活用し、ごみ減量で発揮した 220 万市民のパワーを“もういちど”終結し、市民・事業者・行政の協働により、一人ひとりのエコライフ行動の輪の拡大に取り組んでいます。

さらに、名古屋市の年平均気温は、気候変動とヒートアイランド現象によって 100 年間に 2.8℃の割合で上昇しており、これは過去 100 年間の世界平均である 0.74 度の 3.5 倍以上です。これらの状況から、今後 2050 年の低炭素社会の構築に向けて、平成 22(2010)年度に「低炭素都市 2050 なごや戦略」を策定しました。この戦略では、2050 年までに温室効果ガスを 1990 年比で 8 割削減、2020 年までに 25%削減するという挑戦目標を掲げています。これらの目標を実現させるため、市民の協働によるパワーが不可欠であり、名古屋市も責務を果たさなければならないと考えています。

## 自治体環境グランプリ 2003 —「グランプリ」「環境大臣賞」受賞

自治体環境グランプリ 2003 において、市民・事業者との協働によるごみ減量に対する取り組みと成果が高く評価され、「グランプリ」と「環境大臣賞」を 220 万市民と名古屋市が連名で同時受賞しました。



## なごや環境大学

地球規模の環境問題を学ぶ座学のほか、身近な川や緑地でのフィールドワークなど、まちじゅうをキャンパスに年間 100 以上の講座を開催しています。



栄は一日じゅう活気にあふれた名古屋きっての繁華街です。日本で初めて電波塔と展望台を合わせ持つ集約電波鉄塔として建設された名古屋テレビ塔のほか、2002 年には待ちの新たなシンボルとしてオアシス 21 も誕生しました。



慶長 17(1612)年、徳川家康によって築かれた尾張徳川家の居城。1945 年の戦災により焼失、天守閣は 1959 年に再建されたもの。現在、2017 年の完成をめざして本丸御殿復元工事が進められています。



2050 年、低炭素で快適な都市なごやのイメージ。

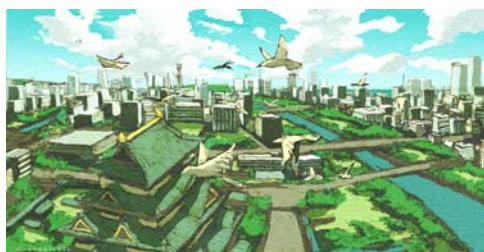


Photo Gallery ▶ [英語サイトへ](#)

<http://www.unep.org/climateneutral/Participants/Cities/CityofNagoya/tabid/1055/Default.aspx>